

# 第 36 章

## ヒラマン 5 - 9 章

### はじめに

このときニーファイ人の歴史は危機的な状況を迎えていた。邪悪な人々の数が義にかなった人々の数を上回ったのである。腐敗しきった法律に人々を善へと導く力はほとんどなかった。曾祖父のアルマに倣って、ニーファイはさばきつかさの職を捨て、主の業に専念した（アルマ 4：15 - 20 参照）。この霊的な暗黒時代に、ニーファイの民は「滅亡の機が熟していた……。」（ヒラマン 5：2）しかし、ニーファイとその弟リーハイの熱心な働きによって、悪の潮流はせき止められ、多くの人々が主のもとに立ち返った。

### 注解

#### ヒラマン 5：2 「民の声」

・モーサヤは、62 年前、民が王を持ちたいと望んだとき、政体は「民の声」によって定めるべきであると勧告した（モーサヤ 29：26）。また、民の大多数が正しくないことを求めるのはまれであると述べた。民の声によって定められる政体は、不義な王が民を滅亡へと導きかねない君主制よりは望ましい政体だった。しかし、救い主の降臨に先立つこの時代にあって、ニーファイ人は「悪を選んだ者が善を選んだ者よりもはるかに大勢であった……。」（ヒラマン 5：2）この腐敗は、もし民の大多数が正しくないことを求めるような事態に陥るならば、「それは神の裁きが〔彼ら〕に下る時であり、神が……〔彼ら〕にひどい滅亡を及ぼされる時である」というモーサヤの警告が正しかったことを証明した（モーサヤ 29：27）。この警告は救い主がお見えになる前に破壊が起きたことによって成就された（3 ニーファイ 8 - 11 章参照）。

この原則は今日<sup>こんにち</sup>においても当てはまると主は宣言された。「邪悪な者が治めるとき、民は嘆き悲しむ。」（教義と聖約 98：9）

#### ヒラマン 5：5 - 7 「自分の名を思う」

・ヒラマンは特別な方法を用いて、自分が受け継いだ遺産を息子たちに譲り渡した。息子たちに、高潔な先祖にちなんで名前を付けることで、先祖の義にかなった行いを思い起こせるようにしたのである。この方法がニーファイとリーハイにとってどのような意味を持ったかを理解するうえで、次に紹介する七十人会長会のカーロス・E・エイシー長老（1926 - 1999 年）の洞察が役立つ。

「アダムの子供たちは、だれもが先祖の偉大な名前を譲り受けたわけではないかもしれませんが。しかし、その多くがそのような名前を譲り受けたことによって影響を受けました。ヒラマンの息子であるニーファイとリーハイの人生がそうでした。……〔ヒラマン 5：5 - 7 参照〕

ニーファイとリーハイが、同じ名前の偉大な先祖に倣った人生を送り、与えられた名前に誉れをもたらしたことは記録がはっきりと証明しています。」（*Family Pecan Trees: Planting a Legacy of Faith at Home* [1992 年], 66 - 67）

・ジョージ・アルバート・スミス大管長（1870 - 1951 年）は、良い名前が人に及ぼす深い影響力について、現代に置き換えた説明を加えている。

「ある日……わたしは自分がどこにいるか分からなくなり、死んだかと思いました。気がつくと、わたしは大きな森の前に、また美しい大きな湖を背にして立っていました。……



わたしは辺りを探り始めました。すると森の中に小道がありました。それはめったに人の通らない道のように、ほとんど草に覆われていました。その道をたどってしばらく歩き、森の中、かなりの距離を進みました。すると男の人が一人こちらに向かって来るのが見えます。非常に大柄な人

だということに気づきました。わたしは足を早めました。その人がわたしの祖父だと分かったからです。生きていたころ、祖父は体重が 300 ポンド（約 130 キロ）以上もありました。ですから、彼がどれほど大きな人だったか分かるでしょう。祖父がこちらに向かって来るのを見て、どんなにうれしかったことでしょう。わたしは祖父の名を継いでいたので、そのことをいつも誇りに思っていました。

あと数歩というところで祖父は立ち止まり、わたしにも止まるように合図しました。それから、このことを少年、少女そして若人の皆さんは決して忘れないでいただきたいのですが、祖父は真剣なまなざしでわたしにこう言いました。

『わたしの名をもらったおまえが何をしてきたか知りたい。』

わたしがかつてしたすべてのことがまるで走馬燈のように、わたしの前に写し出されました。すべてのことが、まさにそこに立っているそのときまでのことが、すべてあつという間にありありと写し出されました。自分の生涯がすべて目の前をよぎったのです。わたしはほほえんで祖父を見つめ、こう言いました。

『あなたの名前に恥じるようなことは何一つしませんでした。』

すると祖父は近寄って来て、わたしを抱き抱えたのです。現世で意識を取り戻したのはそのときでした。わたしの枕はまるで水をかけたかのようにぬれていました。それは恥じずに答えることができた感謝の涙でした。

わたしはこのことを幾度となく考えました。そしてそれ以来、それまで以上に先祖から受け継いだ名前を大切にしようとしてきました。教会ならびに全世界の少年、少女、若い男性、若い女性、そして若人の皆さんに申し上げたいと思います。あなたの父と母を敬いなさい。自分が受け継いだ名前を尊びなさい。なぜなら、その名前でああなたが何を行ってきたかをいつか先祖（そして天の御父）に報告する特権と義務があるからです。」（“Your Good Name,” *Improvement Era*, 1947 年 3 月号, 139）

ヒラマン 5:9 「〔イエス・キリストの<sup>あがな</sup>贖いの血によってのみ〕人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もない」

・十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、ヒラマン 5:9 を用いて、奇跡的な贖罪のみが救いを可能にするということを教えた。

「贖罪が皆さんの人生に完全な奇跡をもたらすには、十分な悔い改めが不可欠です。神は、誤った道を歩む人々を迫害するのを喜びとするようなねたみ深い御方ではありません。贖罪について理解を深めるなら、そのことがいっそう良く分かるでしょう。神はわたしたちの御父であり、あらゆる面で完全で、慈悲の心に富み、思いやり深く、忍耐強く、寛大な御方です。神はわたしたちの懇願を快く聞き入れ、勧告を与え、強め、高め、励ましてくださいます。また、わたしたち一人一人をこの上なく愛してくださっているので、完全で、罪のない、絶対的に従順で、完全に義にかなった御子に、筆紙に尽くし難い苦悶と苦痛を味わわせ、全人類のために御自身を犠牲とするよう命じられました〔ヒラマン 5:9 参照〕。世界は、絶対的な正義が支配することにより秩序を保っています。わたしたちは贖罪のおかげで、そのような世界で生活を続けられるのです。正義が、イエス・キリストの教えに従うことによって得られる<sup>あわ</sup>憐れみによって和らげられるからです。

わたしたちの中で悔い改めの奇跡を必要としない人がいるのでしょうか。皆さんの人生が数々の間違いによって少し傷

ついでいようと、ひどく損なわれていようと、回復のための原則は同じです。しかし、治療の長さ<sup>ゆる</sup>とつらさは、状況に応じて異なります。確かにわたしたちは赦しを目標としなければなりません。そしてその目標に到達できる唯一の道は、悔い改めです。そのことについては次のように記されているからです。

『イエス・キリストの贖いの血によってのみ人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もない。』（『聖徒の道』1995 年 7 月号, 81 - 82 参照）

### ヒラマン 5:9 - 11

贖罪<sup>しよくざい</sup>によってもたらされる救いの力に関する  
リチャード・G・スコット長老の言葉と  
ヒラマンの息子たちに対する教えとを比較する。

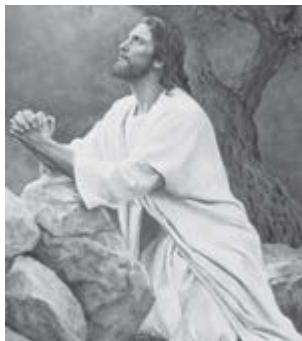
### ヒラマン 5:9 - 14 覚える

・スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、記憶が靈性に及ぼす重要な影響について次のように教えている。「辞書で最も大切な単語を捜すとしたら、どの単語が分かりますか。恐らく『覚える』という言葉でしょう。皆さんは聖約を交わしているわけですから、何をどのようにすべきか知っているはずですよ。したがって、わたしたちに最も必要なことは覚えることなのです。だからこそすべての人は、安息日ごとに聖餐会に出席し、聖餐を受け、祭司が『いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守る』と祈るのを聞くのです。だれも決して忘れることなく聖餐会に出席すべきです。『覚える』という言葉は、ほんとうに大切なのです。『覚える』ことこそ、まさに大切なプログラムなのです。」（“Circles of Exaltation”〔教会教育システム宗教教育者への講演、1968 年 6 月 28 日〕, 5）

### ヒラマン 5:12 堅固な土台

・七十人のブルース・C・ヘーフェン長老は、長期にわたって守られ持ちこたえるためには堅固な土台が必要であることについて分かりやすく説明している。

「かつてこのようなことを言った人がいます。見かけだけではクモの糸 1 本と頑丈なケーブル線 1 本の違いは分からない。違いはそれぞれに圧力を加えて初めて分かる。これはわたしたちの証<sup>あかし</sup>にも言えます。わたしたちのほとんどがそうですが、証に圧力を加えられる日々はもうすでに始まっています。それは愛する人の死ではないかもしれませんが。自分にとってほんとうに大切なものを捨てるように求められた



ことはまだないかもしれませんが。しかし、そのような試練の時も、恐らくいつか訪れることでしょう。わたしたちが現時点で受ける圧力は、ほとんどの場合、耐えられないような誘惑の形を取って現れます。その結果、福音を生半可に受け入れている人は、たけり狂う闇の力に対抗できないということが分かります。あふれんばかりの機会に恵まれる人生を望んでいても、病と絶望に満ちた試練が待ち受けているかもしれないからです。あるいは、わたしたちの限られた知識ではまったく答えられないような疑問が山ほどあるかもしれません。わたしたちよりも知識が豊富だと主張する人々が、説得力のありそうな事実を根拠に、わたしたちをあざけるかもしれません。



そのような時が来ても、わたしたちの証はクモの糸が束になったような順境の時だけの信仰に基づく証であってはなりません。わたしたちを破壊しようとする敵対者の矢を振り払うだけの強さを有するケーブル線が束になったような証でなければならないのです。圧力と問題に満ちた日々を送るに当たって、わたしたちは『神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に』基を築かなければなりません。……『そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の……大風があなたたちを打つときにも、〔それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とす〕ことはない。……なぜならば、あなたたちは……その岩の上に建てられて〔いる〕……からである。』（ヒラマン 5:12）」（*The Believing Heart*, 第2版〔1990年〕, 21 - 22）

**ヒラマン 5:12** **悪魔の大風が「あなたたちを打つ」**  
 ●スペンサー・W・キンボール大管長は、悪魔が天の御父の子供たちに送る現代の嵐について次のように語っている。

「わたしたちもまた、悪魔が解き放つこのような強力な破壊力に立ち向かわなければならぬ時がある。罪、邪悪、不道德、墮落、専制、欺瞞、陰謀、不正直という高波の脅威に、わたしたちは皆、さらされている。わたしたちが用心し

なければ、それらは大きな力を持ち、非常な速さでやって来て、わたしたちを滅ぼしてしまう。

しかし、わたしたちには警告の声がある。それは、わたしたちの心を呼び覚まし、聴く耳を与え、邪悪を退け、永遠の命への道を示してくれる。わたしたちは助けがなければ、それらの悪に対抗することはできない。高台へ逃れるか、さもなければ押し流されないようにしっかりとつかまっているものが必要である。わたしたちがしっかりとつかまらなければならないものが、イエス・キリストの福音である。それは、たとえ悪魔がどのように力を結集しようともわたしたちを守ってくれる。モルモン書中のある預言者は靈感を受けて次のように人々に勧告している。『あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の電と大風があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。』（ヒラマン 5:12）」（『聖徒の道』1979年2月号, 7参照）

#### ヒラマン 5:22 - 25

ヒラマン 5:22 - 25 と 2 ニーファイ 1:15 および  
 アルマ 34:15 - 16 を比較する。キリストの愛は  
 これらの経験にどのように表されているか。

#### ヒラマン 5:35 - 41 アミナダブと「暗黒の雲」

●記録によれば、アミナダブは「生まれがニーファイ人で、かつて神の教会に属していたが、その後教会から離反していた……。」（ヒラマン 5:35）ヒラマン 5:35 に記録されているアミナダブの反応から明らかなように、彼にはまだ、悔い改めて主に立ち返るためにしなければならぬことについて幾らかの知識があった。七十人の F・バートン・ハワード長老は次のように説明している。

「元へ戻るためには、アミナダブが〔覚えていた〕ように、悔い改め、黒雲が去り大切な事柄がはっきりと見えるようになるまで祈らなければなりません。……

……戻ることはできるのです。祈りをやめた人は再び祈ることができます。暗黒の中で道に迷った人も家へ帰ることができるのです。



そしてそのようにするときに、人がかつてどのような状態であったかよりも今どのような状態であるか、また以前どこにいたかよりも現在どこにいるかに、主はより深い関心を持っておられることが分かることでしょう。」(『聖徒の道』1987年1月号, 83 - 84 参照)

### ヒラマン 5:50 - 52; 6:1 - 8 劇的な変貌

● ニーフアイとリーハイは、レーマン人の間で絶大な力と影響力をもって伝道した。彼らが伝道で成功を収めた後、大勢のレーマン人がかつて経験したことのない以下のような事柄が起きたことに注目する。

1. レーマン人の大半が福音に改宗した(ヒラマン 5:50 参照)。
2. レーマン人は、武器を捨て、また憎悪と誤った言い伝えを捨てた(ヒラマン 5:51 参照)。
3. 彼らは、ニーフアイ人の所有地をニーフアイ人に惜しげもなく譲り渡した(ヒラマン 5:52 参照)。
4. レーマン人の大半は、ニーフアイ人よりも義になかった生活を送った(ヒラマン 6:1 参照)。
5. レーマン人がニーフアイ人に福音を<sup>の</sup>宣べ伝え始めた(ヒラマン 6:4 参照)。
6. 全地が平和であった(ヒラマン 6:7 参照)。
7. レーマン人とニーフアイ人は、互いに自由に交流し、思いのままに売買をした(ヒラマン 6:8 参照)。

### ヒラマン 6:17 富に執着する

● 大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、この世のむなしいものに対する執着は、靈感と霊性を妨げると教えている。「慢心から、神を忘れ去ってしまうということです。わずかに繁栄したり平安になったりしただけで、あるいは、ほんの少しだけ改善したというだけで、わたしたちは自分で十

分にやっていけるという気持ちになります。自分の人生は自分でコントロールできる、改善したのは自分の努力の結果であって、御霊の静か<sup>みたま</sup>で細い声を通じて語りかけてくださる神のおかげではない、といった思いにすぐに駆られます。高慢な思いが心の中に雑音を作り出し、そのために、御霊の静かな声を聞きにくくしています。そして日ならずして、慢心のためにその声に耳を傾けようとさえしなくなってしまう。そうすると、自分にはそんなものは必要ないという思いになるのも時間の問題です。」(『リアホナ』2002年1月号, 17)

### ヒラマン 6:21, 26 - 31

ルシフェルとその部下の動機は何か。彼らの動機は、逆に、わたしたちを天の御父から離れないように動機づけることができる。それはどうしてか。

### ヒラマン 6:18 - 40 秘密結社の悪事

● ヒラマン 6 章では、秘密結社に関する洞察が幾つか紹介されている。例えば、秘密結社はどのように働いているか、何が動機となっているか、どうやって権力を掌握するかといったことが挙げられる。

1. 秘密結社には、二つの目的がある。利益と権力を得ること、そしてそれらを誇ることである(ヒラマン 6:17; エテル 8:22; モーセ 5:31 参照)。
2. 社会に悪がはびこっているかぎり、秘密結社は存続する(ヒラマン 6:21, 31, 38 参照)。
3. 秘密結社の繁栄を支えているのは秘密の誓いであり、それを破ることは死を意味する(ヒラマン 5:22; 6:22; モーセ 5:29, 50 参照)。
4. 秘密結社には誓いを立てるという儀式が伴う(ヒラマン 6:22; モーセ 5:30 - 31 参照)。
5. 秘密結社は、殺人、暴力、暴力の脅威、略奪、不道德、そしてへつらいによって利益と権力を得る(ヒラマン 2:4 - 5; 6:17, 23 参照)。
6. 秘密結社は国の法律に反する<sup>おきて</sup>掟に基づいて活動する(ヒラマン 6:23 参照)。
7. 悪魔が大いなる共謀者であり張本人である(ヒラマン 6:26 - 30 参照)。
8. 団員に対する、国の法律ではなく、秘密結社が定めた独自の掟による裁きがある(ヒラマン 6:23 - 24 参照)。



9. 秘密結社は可能なかぎり早く政治権力を手に入れようとする（ヒラマン 2：5；6：39 参照）。
10. 団員は、自分の自由は維持しようとするが、ほかの人々の自由は覆そうとする（エテル 8：25；モーセ 5：28 - 33 参照）。
11. 秘密結社は民の滅亡を引き起こす（アルマ 37：21, 26, 29；ヒラマン 2：13；エテル 8：21 - 22 参照）。
12. 秘密結社は、神の目から見て、忌まわしいものである（3 ニーフアイ 9：9；エテル 8：18 参照）。

### ヒラマン 8：14 - 15 「青銅の蛇」

• 罪<sup>あかし</sup>悪を責める証、また、キリストについての証として、ニーフアイは旧約聖書に記されている一つの出来事、すなわち、



イスラエルの子らが「火の飛ぶ蛇」に苦しめられたときの出来事に言及している（1 ニーフアイ 17：41；民数 21：6 - 9）。イスラエルの民は、ニーフアイの時代の腐敗した判事たちとまったく同様、神と神の預言者をののしったことが発端となり、苦難を受けることになった（民数 21：5 参照）。モーセが青銅の蛇を掲げたことは、キリストが十字架につけられることのひなが

た（象徴）である。青銅の蛇を仰ぎ見た人々は癒されたからである。

ニーフアイはこの話を使うことで、「信仰をもって神の御子を仰ぎ見る」ことの大切さを強調している（ヒラマン 8：15。ヨハネ 3：14 - 15 も参照）。キリストの<sup>あがな</sup>贖いの犠牲を通して、悔い改める人は皆、悪魔の毒に打ち勝つことができるのである。それからニーフアイは、預言者は皆、キリストについて証したことを民に思い出させている（ヒラマン 8：16 - 23 参照）。

• 十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）は、モルモン書で繰り返し述べられている青銅の蛇の象徴が何を意味するかについて詳しく説明している。

「ここには神の意図された重大な象徴的表現が含まれています。このようにモルモン書で詳述される必要がありました。さもなければ、青銅の飛ぶ蛇に関する旧約聖書の挿話から、文字どおり『自分たちの利益となり、知識となるよう』な十分な霊的洞察を得ることはできないのです（1 ニーフアイ 19：23）。この挿話では象徴が用いられていますが、二つ

のことが強調されています。一つは、主イエスの方法が必要であるということ、もう一つは、その方法が単純であるということです。皮肉なことに、モーセの時代には、結局のところ、死んだ人が大勢いました。将来については次のように約束されています。『また、その蛇を仰ぎ見る者が皆生きたように、悔いる霊を抱いて、信仰をもって神の御子を仰ぎ見る者は皆、生きることができ、永遠であるあの命にあずかるであろう。』（ヒラマン 8：15。1 ニーフアイ 17：41；アルマ 37：46 も参照）

上に述べたように、現代のわたしたちは、すでに立証された詳細にわたる事例に恵まれています。分かりやすくて貴い事柄が『それら後の方の記録』で与えられているおかげです。

この挿話全体で、イエス・キリストを主として仰ぎ見る必要があります。そうすることが単純でありながらも不可欠な条件であると指摘されています。主の道は、いつの時代にあっても、実に、分かりやすくて貴いのです。』（*Plain and Precious Things* [1983 年], 22）

### ヒラマン 8：16 - 25

ヒラマン 8 章および教義と聖約 6：9；11：9；15：6；16：6 を読む。すべての預言者が伝えているメッセージは何か。自分はこのメッセージにどのようにこたえているか。

### ヒラマン 9：36 - 41 神の全知

• ニーフアイが奥義や隠された事実を知っていたので、ニーフアイは神だと宣言することを望む者たちもいた。これは神が持つておられる特性に関して一般の人々に理解されているところからすれば当然のことである。ニール・A・マックスウェル長老は、全知は神の特性の一つであると教えている。

「主は、ジョン・ホイットマーに対する啓示で、ジョン・ホイットマーが心の中で願ったこと、主とジョン・ホイットマーだけが知っていることについて語られました。また、この人物に何が必要かを神はすべて御存じであると証されました（教義と聖約 15：3）。

パウロはコリントの聖徒にこう語っています。『更にまた、「主は、知者たちの論議のむなししいことをご存じである。』』（1 コリント 3：20）あの洪水をすぐ後に控えていた時代に、神は地上にはびこる人の悪だけでなく、『すべてその心に思いはかること』をも御覧になりました（創世 6：

5)。神は『あなたがたの心にある事ども』を知って〔いるとも言って〕おられます (エゼキエル 11:5)。イエス御自身も、〔あなたがたが〕祈る前から『あなたがたの父なる神は……あなたがたに必要なものはご存じなのである』と言っておられます (マタイ 6:8)。実に、ニーファイが語ったように、『神はすべてのことを御存じであり、神の御存じでないことはない』のです (2 ニーファイ 9:20)。

したがって、全知は生ける神の特性の一つです。ヒラマン 9:41 にも書かれているように、『神でなければすべてのことを知ることができない』のです。『さて見よ、あなたは証を得た。だれも知らない事柄をわたしがあなたに告げたので、あなたは証を得たではないか。』(教義と聖約 6:24)」(Things As They Really Are [1978 年], 22)

### 理解を深めるために

- ヒラマンは、息子ニーファイとリーハイを強めるために、父祖リーハイとニーファイの模範を用いた。自分は家族のどれから良い影響を受けているだろうか。彼らのどのような点から影響を受けているだろうか。
- これまでの人生で自分の名前はどのような印象を周囲の人々に与えてきただろうか。

- どのような土台の上に自分の人生を築いているだろうか。何らかの調整をする必要があるだろうか。自分にとってどのような土台が最も大切だろうか。
- ニーファイの時代に霊性を高めるうえで妨げとなるものがあつた。それに似た妨げとして、現在自分はどのようなものに直面しているだろうか。

### 割り当ての提案

- 家族歴史を調べ、家族の中で第 1 世代の改宗者はだれか探す。自分史を作るために、家族と話し、家族の信仰と改宗にまつわる話を収集する。
- もっとよく戒めを守り、もっと福音の原則に従った生活を送り、ますます邪悪に満ちていく世界にあってもっと天の御父に近くあるためにはどうすればよいだろうか。友人または家族と話し合う。



ニーファイの時代 © 1999 ロバート・ケートン